令和５年度　SDGs の実現に向けた教育推進事業

市町名　川島町
学校名　つばさ北小学校

１　育成する能力

自ら学び、心豊かに、たくましく生きる川島っ子の育成
川島町を知り、環境について学ぶことを通して『SDGs』を視点として物事を捉え、実践することができる。　【SDGs 目標１５】　（町教委提示を受けて）

２　研究概要

（１）取り組む SDGs の目標

（２）研究主題

「ここが好き・やっぱり好き・川島のよさがあふれる SDGs 教育」
〇環境学習におけるよりよい体験活動を探求し、持続可能な社会の作り手を育てる教育の在り方
〇多様性の時代の生徒指導・教育相談・特別支援教育の在り方

（３）研究仮説

〇郷土を知り、郷土での環境保全活動を体験するなかで、陸の豊かさを守り、海の豊かさを守ることの大切さを学ぶことができれば、児童の郷土愛を育み、自然を大切にしようとする心や態度を養い、持続可能な生活環境を維持する為の資質能力を高めることにつながるだろう。
　そして、身近な環境を見つめる上で、一人一人がより身近に自然環境の大切さと保全の重要性を捉えて、主体的な活動に必要な知識及び技能を習得できると考える。
〇多様性の時代だからこそ、児童一人一人に向き合い、個々を認め、可能性を引き出す教育の在り方を探求することが教育の基盤として大切だと捉える。目標４「質の高い教育をみんなに」の実現に向けて、教師の児童理解に基づいた教育実践が不可欠であろう。そこで、学校として児童理解を深めることで、児童はお互いの個性を受け止め、認め合う人権感覚を身に付けた社会の形成者としての資質能力を伸ばしていくようになると考える。

３　企業・団体との連携

（１）連携・協働する企業・団体

〇埼玉県生態系保護協会・荒川太郎右衛門地区自然再生協議会と連携するなかで、荒川の自然再生地を知り、外来植物や自然環境について学ぶ。その中で、在来植物の育苗や自然環境の保全活動を通して、郷土の豊かさを守ることの大切さを学ぶ。

〇アサヒグループジャパン株式会社における SDGs 教育と連携し、森のタンブラーについて知り、実際に使うなかで、プラスチックゴミの問題を捉え、環境問題を身近に捉え、自分たちのできることを考え、海の環境保全について学ぶ。

（２）連携・協働する主な内容

〇草花プロジェクト「現地での環境学習・環境保全活動」〔４年生〕（年２回の体験活動）
〇荒川流域小学校等とのオンライン交流会
「荒川流域での環境学習をしている学校等との交流授業」〔４年生〕
〇「森のタンブラー」ワークショップ「リサイクルの必要性や、環境保護の大切さを知り、リサイクル材料からなるタンブラーを活用した取組を実践する」〔３年生〕
〇荒川流域小学校等とのオンライン交流会
「これまでの環境学習を振り返り、報告し合う活動を通して、環境学習の大切さやつながりを知る中で、環境学習の大切さを深める」〔４年生〕

４　事業実施計画　～環境学習を中心とした事業～

月　　日	事　業　内　容	場　所	対　象
５月１１日	**草花プロジェクト（環境保全学習）**	教室/荒川太郎右衛門地区自然再生地	第４学年児童
１０月１６日	**草花プロジェクト（環境保全学習）**	教室/荒川太郎右衛門地区自然再生地	第４学年児童
９月２１日	荒川流域小学校間ｵﾝﾗｲﾝ交流会	教室	第４学年児童
２月１４日	荒川流域小学校間ｵﾝﾗｲﾝ報告会	教室	第３学年児童
２月２１日	「森のタンブラー」ワークショップ	教室	第４学年児童

事業実施概要　～児童理解を中心とした事業～

月　　日	事　業　内　容	場　所	対　象
５月２２日	臨床心理士による巡回教育相談	本校教室等	全児童／全職員
６月～	各教科・領域での授業実践	本校各教室	全児童
７月２６日	臨床心理士による児童理解につながる研修会	本校会議室	全職員
１１月２０日	臨床心理士による巡回教育相談	本校教室等	全児童／全職員
１１月～	各教科・領域での授業実践	本校各教室	全児童
２月１９日	臨床心理士による巡回教育相談	本校教室等	全児童／全職員
２月～	各教科・領域での授業実践	本校各教室	全児童

５　成果と課題

◯　児童生徒の変容
・身近な自然（郷土）を守る活動から陸地の豊かさを守る大切さに気づき、川島町に対する愛着や、自然を大切にしようとする心や態度を育成することができた。
・一連の環境保全体験学習〔草花プロジェクト（４年生）、リサイクルを知る中でプラスチックゴミの削減を実感する体験学習（３年生）〕を意図的に学びのつながりとなるように設定することで、３年生から４年生へと学習活動の見通しとつながりをもたせることができた。
・児童理解を深める中で、児童一人一人の可能性を引き出す学びの実践を視点に、授業づくりや声がけ、具体的手立てを通して、児童一人一人の主体的に学ぼうとする姿が見られ、学習意欲の向上につながった。【学校評価児童アンケート「落ち着いて学校生活が過ごせている。」８１%以上の回答】

〇　学校全体の変容
・児童理解が進むにつれ、より積極的な個に応じた対応（個に応じた学習の機会や場の提供、学習活動や授業展開の工夫）を行うことができ、児童は落ち着いて学習に取り組むようになり、学校全体の雰囲気（授業中の様子、集会等の集合解散時の静寂さ等）が落ち着いた。

〇　令和６年度に向けての課題
・統合を控えた両校（つばさ南小学校・つばさ北小学校）の総合的な学習の時間を軸にした学習活動で育成される児童の資質・能力をいかにしてつなげていくか、その為の授業づくりをいかに推進していくかが、喫緊の課題となる。両校の授業連携や、教育課程の編成を通して、令和７年度開校のつばさ小学校におけるSDGs教育推進の視点での教育課程の編成につなげていきたい。